

東京女子師範学校附属幼稚園創設とキリスト教（Ⅰ）

（幼稚園草創期を再検討する試みの一環として）

國吉 栄

わが国最初の幼稚園は、明治9年創設の東京女子師範学校附属幼稚園であるといつてよいと思う。それ以前にも幼稚園の試みがなかったわけではないが、同園をわが国幼稚園の始まりと見ることにおよそ異論はみられない。しかし、ここを出発点とするには、丹念な論考が必要である。なぜなら、同園は国立の、しかも今日まで続いている幼稚園であるため、公的な動きの記録が比較的多く残っており、そのことがかえって幼稚園の歴史の全体像を見えにくくしているように思われるのである。これは記録の量と質から避けがたいことを認めた上で、しかし何とかこれをもう一度記述し直してみる必要があるように思う。同幼稚園の創設には未だ記述されていない多くのものが残されているのではないだろうか。

その一つが本稿のテーマである同幼稚園の設立とキリスト教との関係である。すでにこれまで、キリスト教婦人宣教師によって開かれた子どものための施設の募集広告を初代摂理中村正直が書いたこと、あるいは、附属幼稚園監事関信三とキリスト教との関係などが明らかにされている。それらすでに発表されている事柄を、同幼稚園の創設とキリスト教という観点から再考することが、本稿の課題である。

Ⅰ) 中村正直

中村正直は、彼が初代摂理であったばかりでなく、当代の碩学として著名であり、また大きな影響力もあったこと、初の保母となった豊田英雄を東京女子師範学校の教員として推薦したといわれていること、幼稚園に関する翻訳等を発表していることなどから、幼稚園設立に重要な役割を果たしたものと考えられている。

中村正直とキリスト教については多くの論考があるが、それを幼稚園の歴史そのものの中に位置付けて考えようとしたものはこれまでになかった。中村が上記の生徒募集広告を書いた翌年3月、キリスト教講師者正木護が書いた報告書（以下、謀者報告の引用は小澤三郎「幕末明治耶蘇教史研究」による）の中に、彼と当該施設および婦人宣教師達との関わりが描かれている。「中村敬之助ト云ウハ旧幕ノ大儒聖堂ノ長ニシテ頗ル漢学家ニシテ威儀正シキ性質ノ由然ルニ近年洋学ニ入り<当所ニテハビヤルソン門人ノ由ナリ>従前貯ル漢書類悉ク無用トシテ門人共ニ遣シ専ラ聖書ニカヲ尽シ

耶蘇教ヲ以テ県内ノ人々ヲ盛ニ勸ル由——二月下旬中村敬之助一族ノ娘共三人ヲビヤルソンニ預ケニ来起臥共同人館内ニテ致シ居ルナリ<元ビヤルソン>プロエン」クラビス」ノ三女教師ハ自他国共三歳已上ノ子供ヲ一ヶ月15弗ニテ預リ教授ハ勿論起居衣服等ニ至迄悉ク世話スル規則ニテ洋人ノ子或ハ日本ニテ生レタル間子或ハ西ト支那ノ間子杯八十人余モ居レトモ真ノ日本ノ子ハ一人モ預ケル者ナカリシカ此度静岡ヨリ来ル三人ノ娘ガ日本人ノ預ケ始メナリ>」

明治4年10月、静岡学問所の教授として招聘したE. W. クラークを迎えに横浜山手四八番館に赴いた中村正直は、そこで初めて「アメリカン・ミッション・ホーム（亜米利加婦人教授所）」および「ビヤルソン」すなわちピアノンと出会った。その時書いたのがよく知られている広告文である。上記の記事は、その翌年2月に、中村が「一族ノ娘共三人」をそこに託すために来訪した時のもので、「起臥共同人館内ニテ致シ居ルナリ」と、その様を報告している。

ここで注目されるのは、謀者が挿入した<当所ニテハビヤルソン門人ノ由ナリ>という註である。この記述から、中村がピアノンとの初めての出会いから何度か「当所」に出入りしているらしいこと、さらには彼女に私淑しているのではないかという情報を謀者が得ていたことが知られる。この施設と中村正直との関わりは、一過性のものではなかったのである。明治5年夏、静岡を引き払って上京した正直は、翌6年2月、同人社を設立する。同人社では、切支丹禁制の高札が撤廃された直後でキリスト教排斥の機運の根強かったこの時期に、宣教師による日曜講話を行い、また同8年には女子生徒の入学を許している。そしてピアノンもそこで教鞭をとった。

こうした一連の動きを保育史の面から見ると、次の点を指摘することが重要であろう。すなわち、中村正直は幼児・女子教育というものを、キリスト教と分けることの出来ない一つのものとして体験していたこと、またその体験は非常に強力なものであったこと、およびその体験が点ではなく線として持続していたこと、さらにそれが明治8年の女子師範学校設立、翌9年の幼稚園創設までとぎれなく続いたこと（これについては次報告）等である。附属幼稚園の創設の経緯とその性格について新たな論考が必要となろう。

2) 関信三

これまで保育史に知られている譯者といえば、「幼稚園記」の訳者であり附属幼稚園初代監事である関信三こと安藤劉太郎である（日本保育学会共同研究小委員会「関信三の幼稚園紹介」津守）。彼の譯者報告もまた実に興味深い。

「(明治5年2月13日付) — 静岡県内洋学校義者昨年来並国教師クラーク在留ニテ公然学校内ニ於テ生徒ニバイブルヲ伝習致シ候処近来ハ幾多之信教徒モ出来致シ洋教日ニ蔓延之条伝承仕候而謙右学校ハ教授師中村敬三管轄致シ居候処同人ハ三日奉呈置候外臣某之建白ヲ認候ニ而余程彼教之為メ尽力致シ候由ニ御座候 — 安藤劉太郎」

つまり関信三はキリスト教の密偵として、中村正直の動静を窺っていたのである。摂理中村正直と監事関信三の接点は実にこの邪教密偵の時代にある。太政官譯者安藤劉太郎は、「御内許」を得て、宣教師バラから受洗し横浜公会創立者の一人となって表舞台にでていた。安藤すなわち関信三は中村を隠密に探索したばかりでなく、この時期に直接対面している可能性も高い。また、中村とピアソンとの関係を報告した譯者正木護と安藤劉太郎とは協力して横浜の邪教密偵にあっていたことが、安藤劉太郎の他の報告書等から明らかであるし、彼自身の報告書にも三人の婦人宣教師のことが出てくる。このように見てくると、関信三は、その立場は全く異なるものではあったが、幼児・女子教育を中村正直と全く同じ時期に、同じ場所で初めて体験したと言ってよいであろう。

関信三は明治5年9月、東本願寺現如上人に随行して欧州に旅立つが、上人が帰国した後もおよそ半年の間イギリスに留まった。これは、「邪教」の地に立ち、その生活を実際に見聞するに及んで、彼自身がそれまで依って立ってきたものを根底から確認し直したいという欲求が、非常に強くなったことを示すものではないだろうか。7年初め帰国、東京女子師範学校の英語教師として奉職するまでの彼の消息はほとんど明らかになっていない。おそらく自ら過去を語ることはなかったであろう。帰国後の、中村との邂逅の経緯を明らかにすることが必要であるが、中村との新しい出会いから附属幼稚園監事へと続いた道は、彼にとって必ずしも唐突なものではなかったのではないだろうか。

3) 著作に関して

関信三が本校で英語を教えるかたわら、主に取り組んだのは「幼稚園記」の翻訳であったと思われる。一方、中村正直が幼稚園に関して発表したいわゆる幼稚

園論といわれるものは次の小編、すなわち「トウアイ氏幼稚園ノ概旨」と「フレーベル氏幼稚園ノ概旨」の二編である。初めて発表されたのは明治9年5月発行の文部省『教育雑誌』、続いて同年7月、『同人社文学雑誌』に掲載され、次いで同年11月18日付の東京日々新聞に転載される。

初めて発表された9年5月というのは、6月1日の園舎着工を目前に、幼稚園設立の構想が固まって準備も着々と進んでいた時期である。これまでの研究書では6月1日は「保育法等の議」が漸く決定された日とされているが、実際はそれらについては、手さぐり状態が実情であったにしても、すでにかかなりの討議が重ねられていたと見るべきであろう（國吉、1995）。この時期に幼稚園紹介文を発表することは時宜にかなっており、中村正直が幼稚園創設の実際に深く関わっていたことは間違いないと思われる。

さて、「トウアイ氏幼稚園ノ概旨」は Adolf Douai の "The Kindergarten" の Introductionのごく一部を抄訳したものである。同書はその全体を関信三が翻訳して「幼稚園記」全4巻として東京女子師範学校から発行されており、うち3巻は明治9年7月付である。そのため中村の稿は関の訳によるものとする見方もあるが、訳語の使い方、例えば、Douaiを中村が「トウアイ」、関が「ダウエイ」としていることや、Kindergartenを関が「幼稚園師」と訳しているのに対し、中村は、その語をはっきりとは訳さず、「(フレーベル氏ノ幼稚園ノ事ヲ了解スル) 婦女」としていること、また、同文を自らの『同人社文学雑誌』に転載していることなどから、中村自身の手になるものと考えて間違いないだろう。そこには、関信三が全巻を訳し、その完成の頃に、関が用いた原本を使って中村自ら翻訳の労をとって幼稚園を紹介するという、幼稚園のための両者の協働の姿が見えるのである。

最後に、明治9年東京女子高等師範学校に奉職した武村耕靄について少し触れたい。幼稚園史においては、「東京女子高等師範学校付属幼稚園の実況」の図を描いたことで知られる。嘉永5年(1852)生まれ、横浜共立女学校を卒業。同校の前身は前述の亜米利加婦人教授所であり、3人の婦人宣教師たちに英語を学んだ。明治6年に洗礼を受け横浜公会会員となり、そのすぐ後、東京基督公会創設に関わり、横浜公会宛に8人連名で提出した「請書」の差出人の1人として名を連ねた。その8人の中に、先の譯者正木護が桃江正吉という変名で名を残している。関はこの時すでに英国にあったが、武村耕靄と中村との出会いもやはりこの時期、この舞台であったというのは興味深いことである。